

かかりつけ医シリーズ

14

広島

中区・東区・南区・西区・
安芸区・府中町

迷ったときの

健康寿命を延ばすために

かかりつけ医 & 病院

医療評価ガイド編集部 編著

医者が選んだ、
信頼のドクター
68人

迷ったら
この一冊。

南々社

医療法人社団 沖本眼科



HPはこちら

沖本 峰子 院長 **沖本 聡志** 副院長
Mineko Okimoto Satoshi Okimoto

広島市東区光町1-14-25

☎ 082-264-1320



診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝	駐車場
9:00～13:00	○◇	○	○	○	○	○	—	—	あり
14:30～18:00	○	手術	◇	手術	○	◇	—	—	休診日 日祝

○副院長の診療日(火・木曜午前は12:30まで)

◇院長の診療日(土曜午後は14:00～17:00)

*火・木曜の午後は手術のため、外来診療／コンタクト対応は行っておりません



- 白内障、緑内障、網膜疾患、斜視など幅広い診療に定評
- 弱視・斜視などの小児眼科に豊富な経験
- 基幹病院レベルの技術・設備で日帰り手術ができる

一般眼科から小児眼科まで幅広く診療、日帰り手術も実施

先端医療機器と手術室を完備し、高度な技術で手術を行う

1981年の開業以来、地域の人々の「目の健康」に貢献してきた同院は、2024年、沖本聡志副院長の着任を機に、JR広島駅北口に近い現在地へ移転リニューアルした。副院長は基幹病院の眼科部長として、難易度の高い手術や診療の経験を積んだエキスパートである。その豊富な臨床経験を生かして、最新の医療機器と広い手術室を完備し、白内障や緑内障、網膜硝子体疾患、斜視などの高度な日帰り手術を行う。

白内障手術では難症例を含め、ほぼすべての白内障に対応可能。網膜硝子体手術では、硝子体手術器械と広角眼底観察システムを用い、体への負担が少ない診療体制を整えている。また、より安心してリラックスした状態で手術

が受けられるよう、低濃度笑気ガス麻酔も導入している。

副院長は、小児科医としての臨床経験があり、さらに兵庫県立こども病院眼科への国内留学なども踏まえ、小児眼科領域にも精通した広島では数少ない医師である。子どもに多い斜視や弱視は、視機能の発達時期であることを配慮しながら診療にあたる。「斜視は将来の生活に影響することもあるため、親御さんに丁寧に説明し、理解してもらえるよう努めています。弱視も早期発見・治療が大切なため、検診で指摘や異変があれば早めの受診をお勧めします」と語る。

患者さんの安心と満足のために

沖本峰子院長は「病気を治すだけでなく、来て良かったと感じていただける医院を目指しており、常に、親切、丁寧に、見落としのない診療を心がけています」と話す。

さらに副院長は自身のポリシーを次のように語る。「私は、患者さんがいつもの日常生活に早く回復して戻っていただけるよう、“全力を尽くす”という信念で診療しています」。不安を抱えて受診した患者が、少しでも安心し、満足して帰宅できるよう尽力している。病気や治療法を理解してもらうため、丁寧な説明を重視し、必要に応じて自ら資料を作成して渡すこともあるという。基幹病院で磨いた技術を生かし、地域医療への貢献に取り組んでいる。



広く清潔な手術室には、高性能な最新の医療機器が揃う



外来待合室



外観



沖本聡志 副院長

2004年広島大学医学部卒。舟入病院小児科、広島市民病院新生児科勤務を経て、09年広島大学病院眼科に入局。12年に兵庫県立こども病院眼科に国内留学。16年より県立広島病院眼科部長、その後、広島赤十字・原爆病院眼科部長を歴任、23年より現職。日本眼科学会認定眼科専門医。医学博士